

聖餐式

マタイ 13 : 1-23 「地面のたとえ話」

13:1 その日、イエスは家を出て、湖のほとりにすわっておられた。

13:2 すると、大ぜいの群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に移って腰をおろされた。それで群衆はみな浜に立っていた。

13:3 イエスは多くのことを、彼らにたとえで話して聞かされた。「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。

13:4 蒔いているとき、道ばたに落ちた種があった。すると鳥が来て食べてしまった。

13:5 また、別の種が土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽を出した。

13:6 しかし、日が上ると、焼けて、根がないために枯れてしまった。

13:7 また、別の種はいばらの中に落ちたが、いばらが伸びて、ふさいでしまった。

13:8 別の種は良い地に落ちて、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結んだ。

13:9 耳のある者は聞きなさい。」

13:10 すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに言った。「なぜ、彼らにたとえでお話しになったのですか。」

13:11 イエスは答えて言われた。「あなたがたには、天の御国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていません。

13:12 というのは、持っている者はさらに与えられて豊かになり、持たない者は持っているものまでも取り上げられてしまうからです。

13:13 わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。

13:14 こうしてイザヤの告げた預言が彼らの上に実現したのです。『あなたがたは確かに聞きはするが、決して悟らない。確かに見てはいるが、決してわからない。』

13:15 この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、目はつぶっているからである。それは、彼らその目で見、その耳で聞き、その心で悟って立ち返り、わたしにいやされることのないためである。』

13:16 しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。

13:17 まことに、あなたがたに告げます。多くの預言者や義人たちが、あなたがたのしているものを見たいと、切に願ったのに見られず、あなたがたの聞いていることを聞きたいと、切に願ったのに聞けなかったのです。

13:18 ですから、種蒔きのたとえを聞きなさい。

13:19 御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。

13:20 また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。

13:21 しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。

13:22 また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。

13:23 ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」

はじめに

今日から、マタイの福音書の五大説教の3つめに入ります。

13章は全体がたとえ話です。

ではまず、たとえ話とは何かについてお話ししましょう。

子どものころ日曜学校に行った人は、たとえ話が、「天国のことを教えるための地上のお話」というふうに教わったのではないのでしょうか。

それは間違いではありませんし、子どもにはわかりやすい説明です。けれども、その意味とイエスが 13 章でたとえ話を教えられた理由について、もう少し深く考えてみるほうがよいかもしれません。

まず、マタイの福音書における 13 章の前後関係を見ていきましょう。

11 章までは、イエスはおもに弟子たちにむけて教えておられました。

ここから、イエスの教えが違う段階に突入します。

群衆に教えはじめられます。

13 章の内容は、11-12 章の教えを理解することです。

11-12 章の教えは、13 章のたとえ話の教えへの架け橋となります。

11-12 章は、神の造られた世界と神の御国が、人間の世界と人間の王国と真っ向からぶつかったらどうなるかについて教えます。

神の御国が成就するにつれ、神の御国のありかたに抵抗する人々は異議を唱えるでしょう。

イエスがガリラヤで教え、語られたとき、宗教指導者による抵抗が起き、人々の間には不安が生じました。

けれども、イエスの弟子たちははっきりと理解していました。

イエスは、ご自身が全能の力を働かせて業をなされた町を非難し始められました。それは、その地の人々が悔い改めなかったからです。（マタイ 11：20）

イエスは、人々が信じないことに多少のいらだちを感じながらも、神が霊的な真理を傲慢な人からは隠し、謙虚な人々にはわからせてくださることに慰めを見いだしておられました。

マタイ 11：25-26

11:25 そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現してくださいました。

11:26 そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。

イエスは、安息日に人を癒やして宗教指導者を怒らせ、12：31-32 では赦されない罪が何かを明らかにされました。

律法学者やパリサイ人たちは、イエスに神の子であるしるしを求めましたが、イエスはそれに応じられませんでした。

その代りに、旧約聖書の預言者ヨナのしるしを指し示されました。

11-12 章は、13 章へとつなげる個所ですが、これはイエスによる強力な教えでした。

イエスはここ 13 章で、たとえ話と呼ばれるお話の中に、その強力な教えを隠されたのです。

この説教は、立ち止まって考えることを人々に促すように作られています。

ここに記されたたとえ話は、人を楽しませるためではなく、彼らの考え方に一石を投じるものです。イエスの教えの深層は、これらの教えに対して神によって心を開かれた人たちだけが理解できました。

最初のたとえ話は、「種まきのたとえ」と一般的には呼ばれますが、今日、私はこれを「地面のたとえ話」と呼ぶことにします。

その理由は、このたとえ話の要点は、種の成長に影響を及ぼした土地の状態についてだからです。種は神のみことば、そしてこの個所の文脈では、神の御国に関する福音のメッセージです。

このたとえの場合、マタイはイエスの解き明かしを記録することでその意味を説明しています。

ですから、このたとえ話はわかりやすく、日常にも適用しやすいことがわかります。

今日は聖餐式もありますし、会衆の祈りの時間を始めたこともあるので、時間の関係で、地面に注目し、ここで教えられた真理を 2019 年の日本での生活に当てはめていきます。

1. 道端 (4 節、19 節)

まず、当時の道端とはどういうものを理解する必要があります。

道端は、野菜などを育てる畑とは区別された非常に硬い地面でした。

硬く踏み固められた歩道のようなものです。

普通なら、種が芽を出すことはないような硬い地面です。

OCC の建物の外にあるコンクリートの地面に種をまくようなものです。

このたとえ話では、種をまく人が種をまくために出かけて行って、その途中で種が地面にこぼれたとあります。

そして、この種がどうなったかが書いてあります。

イエスは 19 節で、誰かが神の御国のことばを聞いたけれど理解できないと、悪い者が来て、心にまかれた種を奪ってしまうと説明しておられます。

種に問題がないことはわかっています。けれども、地面に深刻な問題があるのです。

種が育つには、地面が硬すぎるのです。

このたとえ話の文脈から、地面は人の心と生き方だということがわかります。

ここ日本で福音を紹介するとき、イエス・キリストによってのみ得られる救いという聖書のメッセージに対して心を頑なに閉じている人がいることがわかります。

私たちが素晴らしい真理を紹介しても、すぐにサタンに奪われるのです。

神のみことばの真理は、その人たちの人生に実を結びません。

世の中には、科学者、エンジニア、IT 技術者、画家、工学デザイナーなど人間が感動するようなものを生み出せる頭脳明晰で教養のある人たちがいます。

けれども、その中には、イエスがもたらす福音のメッセージの真理を完全にシャットアウトする人がいます。

なぜでしょう。

マルコは 7 : 18-23 で次のように説明しています。

マルコ 7 : 18-23

7:18 イエスは言われた。「あなたがたまで、そんなにわからないのですか。外側から人に入って来る物は人を汚すことができない、ということがわからないのですか。

7:19 そのような物は、人の心には、入らないで、腹に入り、そして、かわやに出されてしまうのです。」イエスは、このように、すべての食物をきよいとされた。

7:20 また言われた。「人から出るもの、これが、人を汚すのです。

7:21 内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、

7:22 姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、

7:23 これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」

日本でも世界中のどこでも、秀でた技で何かを作り出す素晴らしい才能に恵まれていながら、大きな問題を抱えた人たちがいます。

その問題とは、心が汚れていることです。

このようなりっぱな人たちは、イエスが与えてくださる新しい心を受け取ることが拒みます。新しい心をいただけるチャンスを悪魔に壊されるままにしているのです。聖書をとおしてイエスの御声に耳を傾けず、悪魔の声に聴き従っているのです。

そのような人たちに希望はあるのでしょうか。

その人たちの心が頑なな限り、希望はありませんが、私たちはただ祈ることはできます。

もしかすると、神がその人たちの心を変えてくださるかもしれません。

または、その人たちの状況が変わるかもしれません。

その人たちがこの世に生きている間はまだ希望があります。けれども、死んでしまったら希望はありません。

イエスが語られたラザロと金持ちの話がそのことを明らかにしています。

ルカ 16 : 19-31

16:19 ある金持ちがいた。いつも紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。

16:20 ところが、その門前にラザロという全身おできの貧しい人が寝ていて、

16:21 金持ちの食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼のおできをなめていた。

16:22 さて、この貧しい人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。

16:23 その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。

16:24 彼は叫んで言った。『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』

16:25 アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きている間、良い物を受け、ラザロは生きている間、悪い物を受けていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しみもだえているのです。』

16:26 そればかりでなく、私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることもできないのです。』

16:27 彼は言った。『父よ。ではお願いします。ラザロを私の父の家へ送ってください。』

16:28 私には兄弟が五人ありますが、彼らまでこんな苦しみのある場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』

16:29 しかしアブラハムは言った。『彼らには、モーセと預言者がいます。その言うことを聞くべきです。』

16:30 彼は言った。『いいえ、父アブラハム。もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ったら、彼らは悔い改めるに違いありません。』

16:31 アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』』

2. 岩地 (5 節、20-21 節)

これは、イスラエルでは一般的な地面です。

私自身も、蒔いた種が育つようになるには、時間をかけて地面から石を取り除かなくてはならないと経験からわかっています。

英国では、少し土地を持っていて、そこを畑にして野菜を育てようと思ったら、地面を掘り起こして石ころを取り除くために、耕うん機をレンタルします。

私も英国で、耕うん機を借りて自宅の庭を耕し、たくさんの石を掘り出したことがあります。それでやっと、ウェンディが素敵なお庭を作れました。

けれども、イエスがここで語っておられる当時のイスラエルの地面は、表面に良い土の薄い層があります。けれども深くはなく、薄い土の層の下は、岩だらけの地面でした。

そのような地面では、植物が深く根を下ろすことはできません。岩に当たるからです。

それで、太陽が出ると、その植物には水分や栄養を採る根がないので、すぐに枯れてしまいます。

イエスは、このたとえの意味を 20-21 節で説明されました。

喜んで神の御国についての福音のメッセージを受け取っても、その信仰が深く根ざしていないので、困難や迫害が来ると、脱落して、イエスを信じる信仰を貫きません。

イエスを信じていると言って、クリスチャンとしての新しい人生を喜んで送っていたのに、数年後にはもう教会に行っておらず、イエスとの歩みもやめてしまったという人の話を聞くと、とても残念です。

そのようなことが起こるのには、いろいろ複雑な事情があるでしょう。

けれども、現代では、聖書の中でイエスが示された福音とは違った福音を聞いて信じてしまった人たちがいます。

これは、「繁栄の福音」などと呼ばれ、イエスが教えられた福音とは違った福音を多くの人たちに信じさせました。

これは、1950 年代からアメリカで有名になりました。

今では、繁栄の福音を伝える有名名人がたくさんいます。

おおまかには、神にささげ、積極的な思考と告白によって、貧困や病気を乗り越えられると信徒たちに教えます。

繁栄の福音でスター的な存在の人物は、とても裕福で、プライベートジェットを持つ人もたくさんいるほどです。

残念ながら、彼らは富と健康を手に入れたいと願う人たちの気持ちを操り、自分の団体に献金するよう人々を仕向けます。

そして、貧しい国で大きく成功します。

人が偽りの福音を信じて、病気になったり、裕福になれなかったりすると、その信仰を捨てます。その人たちに本当の福音をもって手を差し伸べるのは、とても難しくなります。

信仰を捨てる人は、聖書に根を下ろしていません。彼らは神のみことばに沿ったかたちで弟子として訓練されていません。

自分の考えや期待があって、本当にイエス・キリストとその教えに興味を持っているわけではありません。

そのような人たちをどう助ければよいのでしょうか。

その人たちのために祈り、本物の福音をわかりやすく紹介することができます。

違う福音を信じたことのある人を助けるのは簡単ではありませんが、もしその人が本当の福音を信じる気があるなら、イエスはその人たちを助けることができになります。

その人たちにもまだ希望はあります。

3. いばらの中 (7 節、22 節)

イエスは、いばらの中はとても危険だとおっしゃいます。

良い土のように見えて、イエスについていくのを邪魔したり道を逸れさせたりする要素がたくさんあります。

イエスは、このような場所にはふたつの敵があると教えてください。

それは、この世の心づかいと富の惑わしです。

ヤコブ 4 : 4

4:4 貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。

イエスを愛しながら、同時にこの世のものを愛することはできません。

ヤコブは、イエスよりもこの世を愛することを姦淫と表現します。

私たちの心が、半分はイエスについていきたいと思っていて、もう半分はこの世の流れに従いたいと思っていると、いずれこの世の流れに押し切られるでしょう。

サタンは、私たちにこの世の物をどんどん見せて、イエスに対する私たちの愛を最終的には無いものにしてしまうでしょう。

ルカ 12 : 16-21

12:16 それから人々にたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作であった。

12:17 そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』

12:18 そして言った。『こうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。』

12:19 そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。」』

12:20 しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』

12:21 自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。」

過去にイエスを信じる信仰を告白してイエスについていっていたけれど、今はそうしていない人に、希望はあるのでしょうか。

もちろん、あります。けれども、その人たちは悔い改めてイエスのもとに立ち返る必要があります。

その人たちは、イエスのもとに戻って、心を完全に神にささげなくてはなりません。

4. 良い地 (8-9 節、23 節)

イエスは、良い地が大きな収穫を生むと教えておられます。

23 節には、良い地とは、みことばを聞いて理解する人を指すとあります。

その人は、人生で実を实らせませす。

その実は、新約聖書では御霊の実と書かれています。

これは、イエスと聖書全体の教えに心を開いた人の人生に働く神の聖霊が生み出す実です。ですから、人間が作り出すものではなく、霊の実です。

ガラテヤ 5 : 22

5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、

マタイ 3 : 8-10

3:8 それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。

3:9 『われわれの父はアブラハムだ』と心の中で言うような考えではいけない。あなたがたに言うておくが、神は、この石ころからでも、アブラハムの子孫を起こすことができになるのです。

3:10 斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。

マタイ 7 : 15-20

7:15 にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。

7:16 あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。

7:17 同様に、良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。

7:18 良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が良い実をならせることもできません。

7:19 良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。

7:20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。

マタイ 12 : 33-37

12:33 木が良ければ、その実も良いとし、木が悪ければその実も悪いとしなさい。木のよしあしはその実によって知られるからです。

12:34 まむしのすえたち。おまえたち悪い者に、どうして良いことが言えましょう。心に満ちていることを口が話すのです。

12:35 良い人は、良い倉から良い物を取り出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を取り出すものです。

12:36 わたしはあなたがたに、こう言いましょう。人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。

12:37 あなたが正しいとされるのは、あなたのことばによるのであり、罪に定められるのも、あなたのことばによるのです。」

まとめと課題として、以下の質問に答える必要があります。

今日、あなたの心の状態はどうですか。イエスとそのみことばに対して、聖書全体の神の教えに対してどのような心でしょう。

つまり、たとえ話のどの地面が今日のあなたの心の状態を表していますか。

この問いに、私が代わって答えることはできません。けれども、皆さんにお伝えできることがあります。それは、神の御子イエスが 2000 年以上前に十字架上で死なれたのは、私たちが新しくてきよい心を得るためでした。それは、神のみこころに完全に明け渡された心です。

あなたは今日、イエスのもとに来て、心を明け渡しますか。